

施政方針

市長として2期目の市政運営の基本的な考え方を申し上げます。

10月31日に行われた「にかほ市長選挙」において、市民の方々から多数のご支援をいただき、再び私がかほ市長の重責を担わせていただくことになりました。

今回の選挙で、市民の皆さんから、私のこれまでの取り組みに対し、「よく頑張ってくれている」といった声や、「ありがとう」といった感謝の言葉を多数いただきました。そのうえで「また頑張ってくれ」との言葉をいただき、2期目に向けて意を強くしたところでもあります。引き続き、奢ることなく、人の声に耳を傾けながら、市民と共に、にかほ市発展のために努力を重ねて参りますので、議員各位におかれましても、ご理解とご協力、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

さて、1期目の市政を簡単に振り返りますと、前半2年と後半2年を明確に分けることができます。

前半の2年間は、多くの関係機関や民間団体と対話を重ね、連携協定という形で公式な関係性を築きながら市政運営に協力いただくなどして、市政の発展に繋げてきました。

その中でも大きな効果を発揮しているのが、県立仁賀保高校との包括連携協定であります。市内唯一の県立高校である同校の市内での活躍は、以前にも増して顕著であり、行政との関係のみならず、市内の各種民間団体との関係がより密接なものとなっております。あわせて、同校の外部発信力も飛躍的に増大しており、市のシティプロモーションでも大きな役割を果たしてくれています。

また、国内アウトドアブランドのトップメーカーであるモンベル社との基本合意により、本市の豊富なアウトドア資源の磨き上げをしていただくことになり、市内観光の起爆剤の一つとして、地域活性化の方向性の確立に繋がっています。

一方で、後半の2年間はコロナ禍との戦いであり、市民生活が混乱に陥らないような対策を講じることに注力して参りました。

新型コロナウイルスの感染状況をにらみながら「緊張と緩和」を繰り返し、「適時適策」を念頭に感染予防対策と経済対策を実施してきました。

国家プロジェクトであるワクチン接種事業については、当初の予約受付において混乱を招きましたが、その後の接種業務を含めて、医師や看護師、係員、市職員などすべての関係者が日々改善を重ね、市民の皆さんや各事業所からも多大なご理解とご協力をいただくなど、まさに地域が一体となって取り組んだ結果、大きな事故もなく想定以上の接種率を達成することができました。

また、経済対策では、特にコロナ禍の大きな影響を受けていた飲食・宿泊業への支援として、市民に協力いただきながら実施した「おでかけレストラン・おうちでレストラン」は、工夫を凝らした制度設計と迅速な事業実施によって、直接的な支援対象のみならず、多くの市民の皆さんから高く評価される取り組みとなりました。

ですが、コロナ禍は未だ完全終息したわけではありません。引き続き状況を注視しながら、必要な時に必要な施策、「適時適策」をもって対応して参りたいと考えています。

さて、2期目への基本的姿勢についてお話をさせていただきます。

まずは2期目のスローガンです。それは「加速」です。

1期目4年間におけるすべての課題の根底に横たわっていたのは「人口減少問題」でした。続く2期目では、1期目に取り組んできた施策を更に加速させながら前進して参ります。

そのための方策として、今回の選挙では大きく7つの公約を提示させていただきました。ほとんどが1期目4年間の取り組みの中で明らかになったテーマです。特に少子化対策において中心的役割を担う若者や子どもたちへの積極的な働きかけ、あるいは支援を組み立てていくことの必要性を強く感じました。

そこで、7つの公約に基づき、更に政策目標を3つに分類しています。

その1つ目は、「積極的なシティプロモーションの推進」です。

市民が日頃から抱く愛郷心を視覚化し、ふるさとに誇りを持っていただくためにも、積極的なPR活動は欠かせないものと感じています。

あわせて、市民への情報発信を積極的に進めていくことの大切さを、改めて強く認識しているところです。

2つ目は「産業振興」です。

にかほ市はものづくりのまちです。これまでも他市にはない中小企業への支援を継続してきました。今後はその内容を精査しながら、新たなビジネス展開に繋がるような効果的な支援策を講じていきたいと考えています。

農業については、これまでと同様に関係団体と連携した支援を継続すると共に、スマート農業や稼ぐ農業を目指した特産品開発等についても研究を続けていきます。また、本市オリジナルの「景観保全型ほ場整備」を推進し、前川・象潟地域の農業を守り、特に天然記念物「象潟」の景観を保全・保護、活用して参ります。

水産業については、若い担い手の間で積極的な取り組みが見られています。これらを後押しすると共に、行政としても販路拡大等の積極的な取り組みができないか検討して参ります。

林業については、若手の新規就業者が増えてきています。更に魅力ある産業へと成長できるよう、行政として支援を検討して参ります。

商業については、飲食・宿泊業や小売店などの、地域外の新たな販路開拓や地域内の消費拡大について、関係団体と共に取り組んで参ります。

観光については、これまでの取り組みに付加する形で、アウトドア領域からの新たな展開を図って参ります。

政策目標の3つ目は、「福祉施策から市民生活の向上を目指す」というものです。特に、世代ごとに必要とされる施策を精査しながら取り組んで行かなければならないと考えています。

高齢者が安心して暮らし続けるための施策を、より良いものになるよう取り組んで参ります。

また、子育て支援については、パズルのピースを埋めるように、成長段階に応じた施策を作り上げていきます。

これらの世代に対する支援策等については、引き続きその充実を図り、更なる磨き上げを行っていきたいと考えています。

そのうえで、2期目で新たに組み込まなければならないと考えているのは、これまでほとんど手つかずだった「福祉的視点からの若者支援」です。

私はこの分野を「若者福祉」と表現しています。

若者の自立を促すために、「居住福祉」の観点から政策を組み立てていきます。あわせて、人口の社会減・自然減を抑制するツールとして、移住・定住の促進に取り組んで参ります。

その他にも、若者の気づきや意欲をまちづくりに積極的に活用していきたいと考えています。

最後に、私の2期目4年間の使命は、私たちが暮らすにかほ市が、10年後、20年後、そして50年後も輝けるふるさととして在り続けるために、今を生きる私たちはもちろんのこと、まだ誕生していない将来のにかほ市民もが、誇りを持って暮らし続けられるような基盤づくりをすることだと考えています。

引き続き最大限の努力を重ね、市民の負託に応えられるよう頑張って参ります。